

年間第 33 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 11 月 13 日 (日)

《いただいたタラントン ～感謝しながら、最善を尽くしたか～》

今日の福音(マタイ 25・14 - 15、19 - 21)を読んで、皆様はどのような思いになりましたか。皆様は 5 タラントンをいただいたと思いますか。それとも 1 タラントンをいただいたと思いますか。

『タラントン』というのは、才能のことです。人間には、いろいろな才能があります。皆様は才能をたくさんもらったと思いますか。それとも、才能と言える程のものはもらっていないと思いますか。適当にもらったと思う人もいますよね。

もし、今日の福音に書かれた内容だけを考えてみれば、なぜ神様は一人一人に同じ才能をくださらなかったのか、と思い、痛みを感じると思います。

今日の福音でイエス様が言おうとしているのは、『**“タラントン”**いわゆる**才能は、自分のためのものではない**』ということです。**神様のためのものであります。**

先ほどの質問では、“適当にタラントン(才能)をもらった”と答えた人が多くいました。では、もう一度質問をさせていただきます。適当にいただいた才能を、神様のためにどのくらい使っていますか。たぶん 5 パーセントにもならないのでしょうか。全然使っていない人もいるのでしょうか。

私たちは、どうしても、もらった才能を人と比べてしまいます。「あの人は優れた才能を持っているのに、なぜ私にはそのような才能がないのか。」とか「あの人は上手にバイオリンを弾けるのに、私は全く音楽的な才能を持っていない。」などと思ってしまいます。そのようなことを考えるのは、その才能が自分のためにあると思っているからです。「自分のため、自慢をするためにある」と考えている限り、私たちはいつも満足できません。いつも追いかけられる気持ちになります。しかし、**小さい才能でも、“神様のために使わなければいけない”という気持ちになれば、恵みとして、あふれるくらいいただいた気持ちになれます。**皆様は、本当はあふれるくらいたくさんの才能をいただいているのです。ただ、それをどのように使おうとしているのかによって、お腹がすいた気持ちになるのか、満腹した気持ちになるのか、が決まるのです。

今日の福音のメッセージはただ一つだけです。「私が愛を込めてあげた才能をどのくらい生かし、この世のために頑張ってきたのか。」というメッセージです。

面白いことに、このイエス様がおっしゃっている才能は、自分のために使おうとすれば、逆効果になってしまいます。たとえば、5 タラントンをもらった人がいるとしましょう。そして、自分の宝物にして、自分のために使おうと思ったとしましょう。その人は、神様に感謝する心より、高慢な心に陥ります。全ての人々がみんな自分より下に見えます。実際に、そのようなタレントをもらっても、破滅の道を歩んでしまった人々がほとんどではないかと思えます。

皆様はたくさんいただいています。今日の福音の「5 タラントンをもらった人が 5 タラントンを儲けた」話は、神様がくださった『量』の問題ではなくて、それを『感謝しながら最善を尽くしたかど

うか』が問題だ、という話です。1 タラントンをもらった人は、最善を尽くさず、「あなたが怖くて隠しました。」と答えました。皆様、これからもう一回頑張りましょう。皆様はたくさんもらっています。それをどのくらい神様のみ旨に適うように使っているか、考えてみましょう。神様のみ旨に従って使おうとすれば、誰にも説明できないあふれる感謝の心になります。そういう体験をしてみてください。「いただいた賜物をどうすれば、神様も私も幸せになれるように使えるのか」それをよく考えてみたら、必ず道が見えてきます。

いただいたのは1 タラントンでもいいのです。なぜならば、たくさんもらった人は、それだけ苦労がついて来ます。1 タラントンしかもらわなかった人は、もっと楽しみながらいただいた使命を果たせるのかもしれませんが。差別はありません。

今日の福音で一番大事な言葉があります。「**それぞれの力に応じて**」という言葉です。イエス様は、**負える十字架だけをくださるのです**。絶対に、負えない十字架、負えない才能はくださらないのです。今、持っている痛み、喜びも、自分に一番ふさわしいものをイエス様が私たちに許してくださったのです。持っている全ての賜物は使うべきものです。果たすべきものです。それだけ意識しましょう。

ありがとうございました。